

(10) 四 国



四国地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費はサービス支出を中心に弱い動きとなっている。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さが増している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す（ は上方に変更、 は下方に変更）。

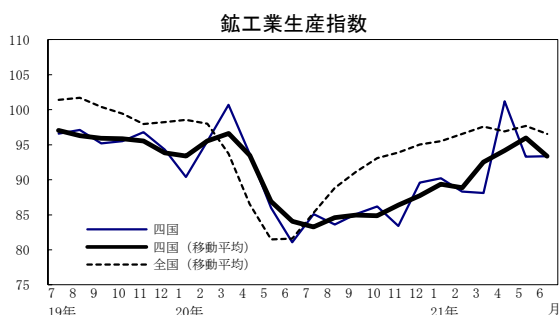
前回からの主要変更点

	前回（令和3年6月）	今回（令和3年8月）	
個人消費	このところサービス支出を中心に弱い動きとなっている	サービス支出を中心に弱い動きとなっている	→
雇用情勢	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さが増している	↑

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直している。

4－6月期の鉱工業生産は、化学・石油石炭製品が増加したこと、電気機械が増加したこと等により、前期比8.0%増となった。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1－3 月期	4－6 月期	4月	5月	6月
化学・石油石炭	22.1	▲2.5	17.1	45.9	▲19.6	0.5
食料品	13.8	▲0.7	7.6	9.1	▲6.4	5.5
電気機械	12.8	10.4	10.8	3.7	6.1	▲1.7
汎用・生産用機械	11.3	1.4	9.0	0.6	1.4	0.1
輸送機械	7.9	12.0	4.7	12.1	▲3.9	▲2.5
鉱工業	100.0	2.9	8.0	14.9	▲7.8	0.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 4－6月期、6月は速報値。

(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。四国の最新月は速報値。

2. 全国及び四国の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。

2. 個人消費の動向

個人消費はサービス支出を中心に弱い動きとなっている。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4-6月期は前期比1.7%増となった。月別にみると、4月は前月比0.9%増、5月は同0.1%減、6月は同1.4%増となった。

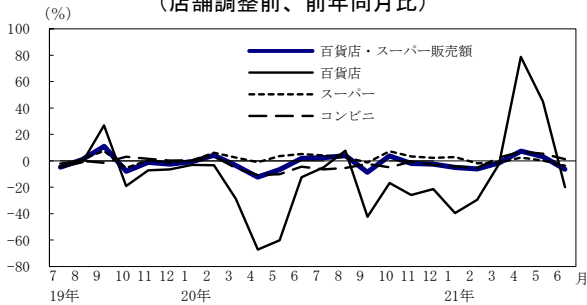
(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、4-6月期は前年同期比1.1%増(前々年同期比4.5%減)となった。月別にみると、4月は前年同月比7.5%増、5月は同3.2%増、6月は同6.2%減となった。

百貨店は、4-6月期は前年同期比14.7%増となった。

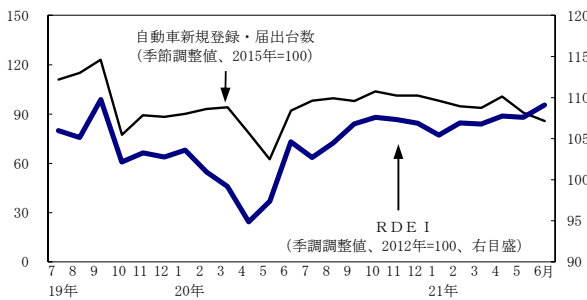
スーパーは、4-6月期は同0.4%減となった。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



	2021年4-6月	2021年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	1.7	0.9	▲0.1	1.4
百貨店・スーパー(*2)	1.1	7.5	3.2	▲6.2
百貨店(*2)	14.7	78.8	44.9	▲20.0
スーパー(*2)	▲0.4	2.6	0.1	▲3.7
コンビニ(*2)	4.5	7.0	5.4	1.3
乗用車(*3)	17.2	28.3	45.1	▲7.1
(季節調整値)(*3)	▲3.2	7.6	▲9.8	▲5.6

RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

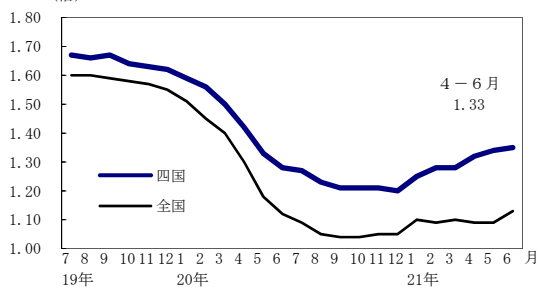
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比)(%)

3. 雇用情勢

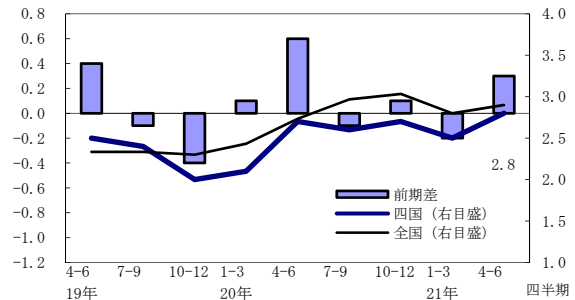
雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さが増している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を上回っている。

(倍) 有効求人倍率 (季節調整値、就業地別)



(ポイント) 完全失業率 (季節調整値) (%)



(備考) 内閣府にて季節調整をおこなったが、季節性が認められなかったことから、原数値と同じ。

(13) 景気ウォッチャー調査 (令和3年7月調査) 景気判断理由の概要

10. 四国

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

	分野	判断	判断の理由
	現状	家計 動向 関連	
			・季節商材やテレビを筆頭に販売量が伸びている(家電量販店)。
			・新型コロナウイルス感染症の感染者数が更に増えて客が動かなくなっている(美容室)。
企業 動向 関連			・ワクチン接種の遅れにより、例年のイベント等も依然として多くが中止になっている(広告代理店)。
			・受注量が改善されてきている。ウッドショックの影響を受けると思っていたが、受注は落ち込まなかった(木材木製品製造業)。 ・官民とも受注が思うようには伸びない(建設業)。
雇用 関連		・新規求人数が3か月前と比べてやや増加している。新規求人倍率も若干増えている。このため、景気が悪化の一途をたどっているとはいえない(職業安定所)。 ・企業の人材採用手法の1つである紹介予定派遣を活用する動きが増加しているようにみられる(人材派遣会社)。	
その他の特徴 コメント		：ワクチンの接種率が上がり、重症者数も少なくなっていることから、少しずつ客足が戻っている(一般レストラン)。 ：高齢者向けのワクチン接種は順調に終わっているが、他の年齢層への接種は始まっていない地域が多い(コンビニ)。	
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計 動向 関連		・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加し続けており、ワクチンの普及にも時間を要するため、景気回復には時間が掛かると考えている(衣料品専門店)。
			・新型コロナウイルスの感染再拡大による外出自粛の呼び掛け等により、観光客が減少するおそれがある(観光遊園地)。
	企業 動向 関連		・既存客の新規輸出案件が来月から始まる予定である。出荷量についても、現在の増加傾向が継続すると予想する(輸送業)。
			・除菌用や掃除用のウェットクリーナーは、新型コロナウイルスの影響で需要が高いが、供給量も多いため売行きは変わらない(パルプ・紙・紙加工品製造業)。
雇用 関連		・異動時期に入り、求人数が増加すると考えている(求人情報誌制作会社)。	
その他の特徴 コメント		：新型コロナウイルスの感染状況とワクチン接種の進捗を消費者が様子見している状況である。今後は感染状況が落ち着いている地域から先行して観光客が戻ってくると思う(観光型旅館)。 ：ワクチン接種は進んでいるが、依然として新型コロナウイルス感染症の終息は見通せず、先行きの不透明感は払拭できていないことから、個人消費の増加等による景気回復はしばらく見込めないと思う(金融業)。	

(D I) 現状・先行き判断D I (四国)の推移(季節調整値)

